

令和4年度第1回亀岡市環境審議会議事録

開催日時	令和4年10月3日(月) 午後3時30分～午後5時
開催場所	亀岡市役所市民ホール
出席者	高澤会長、黒田(幹男)委員、山川委員、田部委員、櫻井委員、西村委員、井内委員、稻村委員、太田委員、坪井委員、浦幹事、山内幹事、由良幹事、伊豆田幹事 (事務局3名)
欠席者	黒田(洋二郎)委員、吉川委員
傍聴者数	なし
次第	審議事項 (1)亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)の策定について (2)第2次亀岡市環境基本計画の総括について (3)亀岡市環境白書について

1 委嘱状交付

2 会長挨拶

3 審議事項

(1)亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編) の策定について

«資料に沿って事務局から説明»

委員

2050年カーボンニュートラルを目指すにあたり、主要な施策として太陽光発電などをあげているが、それらのアウトプットは全て電力である。2050年時点で、化石燃料やガスが全て電力に置き換わっていない可能性について、今回の計画ではどのように見込んでいるのか。

例えば、排出量取引やカーボンクレジットで、域内で発生する CO₂ をカバーする手法も検討していかなければならないのではないか。

事務局

方策の一つとして、今後、期待される技術革新をあげることは可能だと思う。一方で、計画策定にあたっては、見通しの立つ再生可能エネルギー、特に市域で有望なポテンシャルを持つ太陽光発電が主眼になるとを考えている。

委員

現在の亀岡市の太陽光パネル設置面積や発電量のデータがあった方がよいのでは。

また、24 時間燃えている焼却炉などの施設は発電をしているのか。

事務局

今回の資料では、環境省が算定したデータを掲載しており、市域の建物や土地に設置することを想定したものだ。ご指摘の点については、今後、調査を進めさせていただきたい。

焼却場施設については、現在は発電機能を備えていないが、更新も控えているため、市全体をみながら検討していくことになると思う。

委員

再生可能エネルギーの導入について、太陽光を主力とすることには賛成であり、期待もしている。しかし、2050年にカーボンニュートラルを目指すにあたり、パネルの廃棄問題が必ず出てくる。2030年、2050年時点でのパネルの廃棄量や処理能力などの試算はあるのか。

事務局

脱炭素を進めるにあたり、太陽光パネルの廃棄は非常に重要な課題であり、検討していかなければならぬと認識している。

委員

太陽光発電についていくつか問題を感じている。一つは、売電価格が当初より下がっていることだ。二つ目は、ため池発電について、通常は農業の周期にあわせて水位が変動するため、導入の決断が難しい。三つ目は、屋根に設置する際、瓦の張り替えのタイミングが課題と考えている。

太陽光で発電した電気は、パネルで交流に置き換え、関西電力が送電する。しかし、家庭の電化製品は直流で動いている。家庭で作った電気が自分のところで使えるよう、家電が変われば太陽光もより普及するのではないか。そのあたりの知見は。

事務局

直流エリアを作り、エネルギー効率を上げていくという構想はあったと認識している。ただ、感電の確率が高まるなど、技術的な課題があり、現状では主流になっていないようだ。

委員

資料の中に、太陽光のポテンシャルマップ（土地系）があるが、農地には設置規制がかかっているなど、マップ通りに設置することは難しいと思われる。どのような基準で算定しているのか。

事務局

日本全国を対象に作成されている資料で、規制等により実際には設置できない箇所も含まれている。

委員

市域の再生可能エネルギーのポテンシャルを176万MWhとしているが、設置できないところも含んでいるとなると、基準を見直した方がよいのではないか。

事務局

今回の資料では、全体のポテンシャルに対し、必要量は60万MWhということを示している。実際に設置できるかなど、さらに調査した上で計画を進めていきたい。

委員

温室効果ガス削減目標のグラフについて、2030年度に削減量50%という亀岡市の目標に対し、推計値の整合性がとれていないように見える。また、部門別の削減量の推移とグラフも合っていない。本来は、業種別に少しずつ減りながらゼロに收れんしていくグラフになるはずなので、見直していただきたい。

事務局

2013年度比で2030年度に50%削減が目標となっている。2013年で50万t超となっている半分の25万tが2030年の数値となり、50%減を達成する。表では、2013 年度比で7万2千t減らすということを表している。

業種別の削減割合がぶつ切れにならないように、という指摘については、見せ方を検討させていただきたい。

委員

2030年度で25万tほどと言うが、削減量の推移の表における合計を見ると7万2千tしか減らないように読み取れる。本来ならばここは25万tになるはずで、分かりにくいため説明が必要だ。

事務局

誤解のないようグラフを修正したい。

委員

亀岡市の課題について、亀岡市環境基本計画で挙げていた課題には、細かい数字で目標値などが書いてあったと思う。現在挙げている課題で、亀岡市環境基本計画における課題解決も図れるのか。

事務局

亀岡市環境基本計画と整合を図りながら、計画策定していく。今回の計画は、主に脱炭素の取組に特化したものとなるが、亀岡市環境基本計画における課題も織り込んでいきたい。

会長

将来イメージの整理について、推進会議においても再エネ導入のほか、渋滞緩和や省エネ関連の意見が出ていたと思う。一方で、資料では再生可能エネルギーの内容が中心となっており、渋滞緩和や省エネの取組については、どのぐらい踏み込んでいるのか。

事務局

現状、温室効果ガスの排出量とポテンシャルが主眼となっているが、交通課題なども脱炭素に向けて重要な施策になってくると思う。資料で将来イメージの図を挙げているように、再エネだけでなくEVの活用など諸々の取組が必要になってくる。課題を挙げる中で、施策に対するご意見もいただき、検討していきたい。

委員

計画の策定スケジュールに関して、時間的にもタイトで検討することが多いが、環境審議会と環境基本計画推進会議のスケジュールを教えて欲しい。

事務局

10月と11月の2ヶ月間が重要だと考えており、亀岡市環境基本計画推進会議における小規模会議なども活用しながら、議論を進めていきたい。状況を見ながらになるが、12月、1月で環境審議会の開催にもご協力を願いしたい。現在、スケジュールの見直しをしており、改めて連絡させていただきたい。

委員

現状のスケジュールでいくと、環境審議会に関しては、今回委員の意見を聞いた後、次はパブリックコメントの前に最終チェックをするだけとなる。このスケジュールでよいか検討願いたい。

会長

荒廃農地や放置林といった亀岡市の課題に対しても、再生可能エネルギーなどの活用を検討願いたい。

(2)第2次亀岡市環境基本計画の総括について

(3)亀岡市環境白書について

«資料に沿って事務局から説明»

委員

亀岡市環境白書の悪臭について、数値が記載されているが、これは専用の測定機があるのか。悪臭というのは人間の感覚かと思う。土作りセンターの臭いへの対応として、環境委員会を作っているが、簡単に測定できて、人への影響なども測れる方法がないか教えて欲しい。

幹事

京都府に検査機器を借りて、吸引機の先に空気を通らせて測定するという方法を実施したことがある。さらに、鼻の嗅覚で調査するという方法もあり、状況に応じて使い分けている。

会長

第2次亀岡市環境基本計画取組状況報告について、例えば騒音振動防止の項目に令和3年11月11日、12日及び12月12日に実施した、とあるが、何を実施したのか。他にもこのような項目が予想されるので確認願いたい。

事務局

交通量の多い道路に装置を置き、騒音や振動の調査をしたことを書かせていただいた。

4 閉会

以上